

灯



昨年末、文科省から重文指

定通知書が届いた。思い返せば4年前の「灯」初掲載の題は『継承』だった。草野本家を継承し、その維持にどう取り組むかの思いを書いたのだが、一つの答えがこのたびの国指定重要文化財への昇格だと思う。

祖父の晩年、次第に家屋の傷みが進行し、父の代にはさらに多額の修理費用がかかるようになっていた。

重要文化財指定



草野 義輔

は到底不可能で、市や県の担当者といろいろ相談を重ねたが、財政厳しい時世で対応に苦慮していた。

5年ほど前、茶道裏千家の前家元千玄室大宗匠がふらりとわが家に立ち寄られたことがあり、見学されながら「これは国の重文でもよいのでは」と話されたことが強く印象に残っていた。

一流の方の評価は大変心強く、その後の申請活動の大きな支えとなった。

国指定は一方の文化財というレベルではなく、たとえ認識している。加えて近年の文化財は広く公開されることも期待されているので、その維持管理にはこれまで以上の配慮が必要になるだろう。名譽とともに重寶である。

昭和60年、大分県の指定文化財になり、公的支援が可能となったので随分と助けられたが、江戸中期から明治前期に建てられた広大な屋敷は少々の修理では追いつかない。私が入田に戻って30年あまりだったが、修理をしない年は一年としてなかった。自費だけで

(昭和学園高校理事長・日田市)